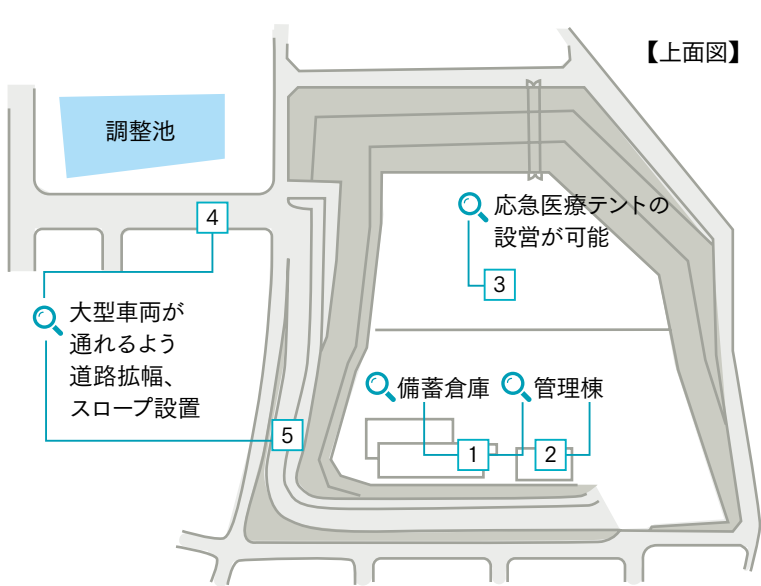




1



3



2



5



4

伸びゆくまち・桑名

桑名のまちづくりが進んでいく様子をお伝えしていくシリーズです

令和2年秋 稼働予定

第20弾 桑名市防災拠点施設

災害時に必要になる水・食糧・医薬品・応急復旧資機材などは、市内各所に分散して備蓄しますが、大規模災害の場合は被災地域外から大量の救援物資を受け入れ、分配する必要があります。救援物資をいったん集め、荷さばきし、分配を行う拠点が、星見ヶ丘に建設されています。

救援物資を集積・管理

桑名市防災拠点施設は、大規模災害時に被災地域外から救援物資を受け入れ、分配を行う場所です。インターネット環境を整え、タブレットやパソコンを使って国や県、避難所と連携し、物資の流れや避難者のニーズをシステムで管理します。

この地にある利点は、浸水の影響がない丘陵地で住宅地の各避難所に近いこと、東名阪自動車道桑名ICに近い、四日市東IC横の三重県広域防災拠点（北勢拠点）



桑名市防災拠点施設

星見ヶ丘4-1001

この記事に関するお問い合わせは、秘書広報課へ
(☎ 24-1492 ☎ 24-1119)

から物資を運びやすいことが挙げられます。

敷地内には防災備蓄倉庫と、研修室を備えた管理棟があります。建物前の広場は、病院が被災した場合など状況に応じて医療救護所として活用することも想定しています。また、平常時には研修室を市民への防災教育の場として提供するなど自治会や自主防災組織の活動を支援し、地域の防災力向上につなげていきます。

市長がふれる！

未来の防災力

バスを活用して
高台に事前避難



7月に入ってから新型コロナウイルスが急速に再拡大しています。コロナから市民の皆さんの命を守る取り組みも大切ですが、同様に災害から市民の皆さんの命を守る取り組みも重要です。

今年に入ってから、九州や東北などで大雨による大規模な水害が発生し、尊い命が奪われています。

桑名市でも伊勢湾台風規模を超えるような超大型台風の襲来、南海トラフ巨大地震などの大規模災害が、いつ発生してもおかしくない、そんな時代となりました。

桑名市は災害対策に特に力を入れています。今月号で特集している防災拠点施設の整備もその一つです。また国や三重県も、市内の堤防補強工事を順次進めています。

その他、さまざまな災害を想定し、対策を行うわけですが、とりわけ災害時のリスクとして桑名市が考えておかなければならないのは、海拔ゼ

ロメートル地帯をはじめとする浸水想定区域がかなり広範囲に広がっており、一旦浸水すると長期間水が引かない地域に、人口14万人のうちの約半数がお住まいであるということ。そのため、浸水の危険がある場合は、浸水区域から脱出し、高台へ避難していただく必要がありますが、

移動手段を持たない高齢者などの避難行動要支援者や要配慮者をどう避難させればいいのか、ここが大変大きな課題でありました。

そこでこの度、三重交通(株)と相互支援・協力協定を締結しました。巨大台風による高潮被害が想定される場合や、大津波に備えて事前避難が必要な場合に、コミュニケーションバスなどを活用し、避難行動要支援者などを高台にある市の指定避難所まで移送していただくとともに、市民の皆さんの大切な移動手段であるバスの高台への避難を支援するという内容のものです。

今後、具体的なバスの運行ルートを検討していくことになりませんが、まずは台風発生が本格化する前に協定を締結することができ、ほっとしています。

引き続き「命を守ることが最優先」に防災・減災対策を強化してまいります。今後この協定を例に、行政だけではなく民間事業者の力も借りながら、市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりを行ってまいります。



三重交通(株)竹谷社長（左）と協定を締結しました。